

トライリンガル 養成特定プログラム

《中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語》



トライリンガルとは？

トライリンガル (trilingual) とは「3つの言語を自由に操れる人」という意味です。

このプログラムは、母語である日本語とこれまで学んだ英語にもう1つの言語を身につけるためのプログラムです。

EU諸国では、「母語+2言語」が教育のスタンダード。グローバル社会に生きるみなさんも、このプログラムで1年次に学んだ3つ目の言語をより深く学び、「母語+2言語」を身につけませんか？

プログラムの目標

1年次に学習した初修外国語（中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語）でのコミュニケーション技能を伸ばすとともに、国際的に活躍するために必要な言語運用能力と多言語・多文化に開かれたマインドを養成します。



プログラム修了時の到達目標

① 技能検定試験の合格

中国語 中国語検定試験 2級 または HSK(漢語考試) 5級

韓国語 ハングル能力検定試験準 2級 または TOPIK (韓国語能力試験) II 6級

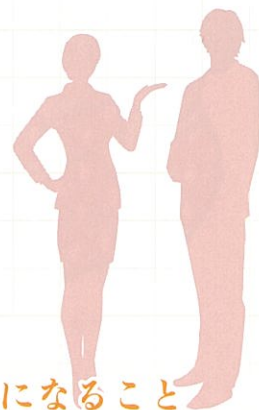
ドイツ語 ドイツ語技能検定試験 2級 または Goethe-Zertifikat B1

フランス語 フランス語技能検定試験 2級 または DELF/DALF B1

スペイン語 スペイン語技能検定試験 3級 または DELE B1

② それぞれの言語で自分の専門領域について簡単なプレゼンテーションができるようになること

③ 日本と当該言語の社会・文化比較、時事問題について、それぞれの言語で論理的に意見表明・議論ができるようになること



学習のプロセス

1年次

- ◆ ベーシック外国語
- ◆ インテンシブ外国語

2年次

- ◆ コア科目 **8単位** 2年次での履修が望ましいが、3・4年次での履修も可能

3～4年次

- ◆ 発展科目 **4単位** 条件を満たせば、2年次での履修も可能

それぞれの言語圏での短期上級留学を行った場合には、レベルに応じて「コア科目」と「発展科目」の「海外語学演習」として2～4単位がカウントされます。

このプログラムに参加するためには？

プログラムに参加するためには、次のいずれかの条件を満たしている必要があります。

① 1年次にそれぞれの言語のインテンシヴコースのすべての単位を取得していること

△ ベーシック外国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳとインテンシヴ外国語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBのすべての単位（合計8単位）を取得していること

② 当該言語の指定された級の検定試験に合格していること

中国語 中国語検定試験準4級 または HSK (漢語考試) 2級

韓国語 ハングル能力検定試験5級 または TOPIK (韓国語能力試験) I 1級

ドイツ語 ドイツ語技能検定試験4級 または Goethe-Zertifikat A1

フランス語 フランス語技能検定試験4級 または DELF/DALF A1

スペイン語 スペイン語技能検定試験5級 または DELE A1

③ 過去の学習歴や留学等の経験を通じて、上記①または②の条件に相当する言語運用能力があると認められること

登録方法

登録受付期間 (1月初旬～2月初旬) に「My もみじ」から登録を申請する

ガイダンス (2月中旬～3月初旬) に出席する

登録審査 (条件に応じて筆記試験や面接があります)

審査結果の通知 (3月下旬)

「My もみじ」で履修登録を行う

プログラムの定員

各言語 30名程度



取得単位の取り扱い

このプログラムで取得した単位は、「専門教育科目」のうち「他学部等専門科目」もしくは「自由選択科目」として卒業要件単位としてカウントされます。単位数は各学部・学科で異なりますので、所属学部・学科で確認してください。

長期留学による単位認定

それぞれの言語圏において6か月間以上の長期留学（海外の大学またはその国の教育機関が運営する語学研修等）をした場合は、「発展科目」の中から自由に選んだ最大4単位を認定します。留学による単位認定を希望する場合には、遅くとも卒業予定年度の10月31日までに、「外国の研修機関における語学研修認定申請書」に修了証・成績証明書および語学研修の内容（学修レベル・カリキュラム・時間数等）が分かる書類を添えて、外国語教育研究センターに申し出てください。

履修者からの声

- 授業が毎回すごく楽しいです。発展内容で難しい時もありますが、どんどん自分の言語使用の幅が広がって行って、アカデミックな授業を受けられて、非常に満足しています。
- 1年生よりも発展した内容を授業で学習するので、新しいことが学べて嬉しい。話せるようになるだけでなく、語学試験対策にもなる。
- 自分の興味のある言語をより深く学ぶことができる。また、その言語が公用語となっている国への留学も視野に入れることができた。
- スピーキングの能力が向上した。ネイティブの先生に教わることでより自然な言い回しが身についた。
- 1年次に習ったことを忘れることなく、新しい知識を身につけることができているように感じるため。
- 専門である西洋史の授業で、ドイツ語の文献を読むときに比較的スムーズに読むことができた。また、他の授業の内容と、ドイツ語の授業で聞いたドイツについての話がリンクして、知的好奇心をそそられることもあった。
- 継続的に4年間中国語を勉強したことで、1年生の頃と比較して確実に力がついていると感じます。また、日常生活で中国語を使う機会がないので、授業で週に1回以上その機会を持てていることに非常に満足しています。
- 復習の時間の割合がちょうどよく、特別大変ではないのにフランス語を徐々に身に着けることができていると思った。

問い合わせ先

広島大学外国語教育研究センター

E-mail: trilingual@ml.hiroshima-u.ac.jp

<https://www.flare.hiroshima-u.ac.jp/>

